



□資料紹介

「現在校生徒中基督教信者名簿（明治三十九年十一月廿九日改訂）」
「明治三十九年九月一日以降洗禮受領者調」の紹介と若干の考察

資料室 佐藤 亜紀

はじめに

2019（令和元）年9月、宮城学院133回目の創立記念日をまもなく迎えようとしていた頃、資料室に本学院関係者から一通のメールが届いた。亡父の先妻にあたる方が宮城女学校出身で、在学時代もしくは卒業してからの記録等が残ってないか、という問い合わせであった。早速、関連資料がないかと倉庫を探したところ、たまたま手にしたものの中に本資料を発見した。その中には、問い合わせられた名前も記載されていた。本資料は、大きく二つの綴りに分かれていた。上に、中心となる10枚綴り「現在校生徒中基督教信者名簿（明治三十九年十一月廿九日改訂）」（以後、資料Aと呼ぶ）があり、その下に2枚綴り「明治三十九年九月一日以降洗禮受領者調」（以後、資料Bと呼ぶ）があった。さらに、この資料全体を見たところ、これまで他に紹介されたことのない資料であるように思われたので、今回、本年報で紹介することとした。

1 資料の翻刻（以下、52頁～69頁に掲載）

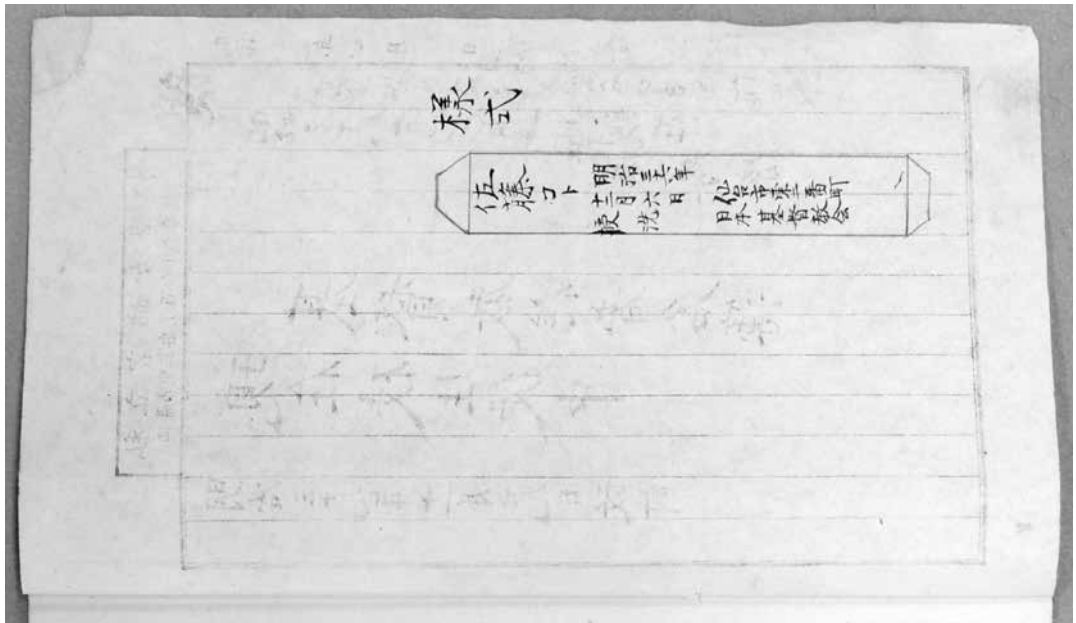
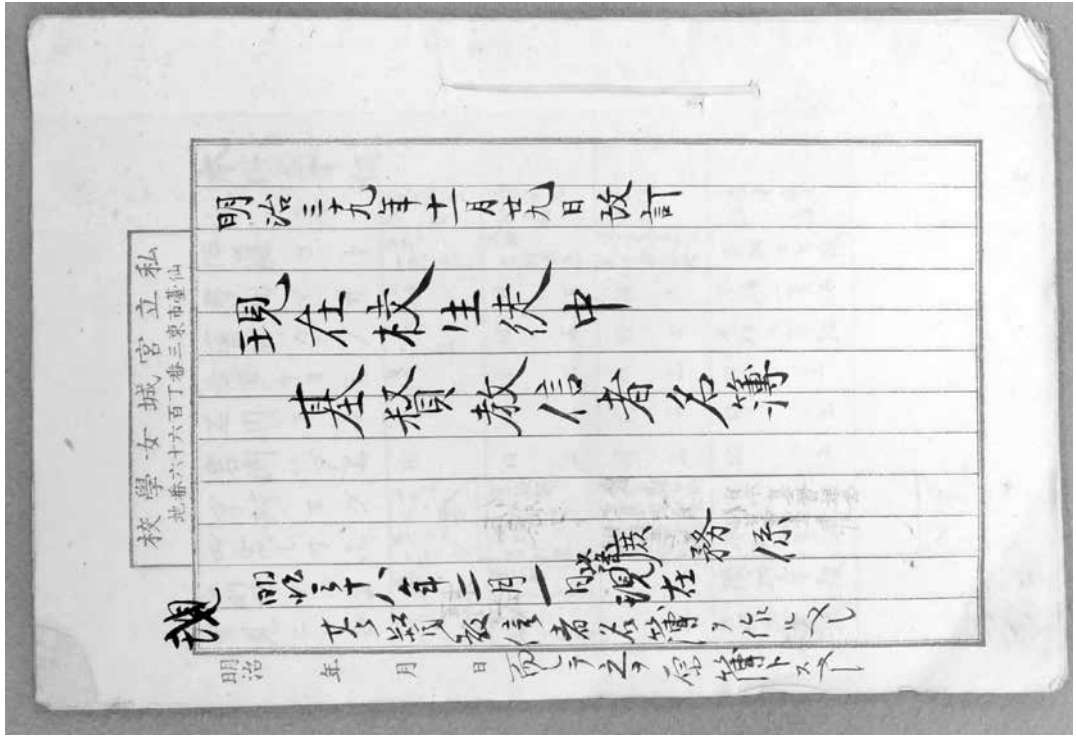
2 考察

1) 全体の様相

資料Aは、宮城女学校本科一年生から本科五年生までと、予科一年生から予科三年生までの、現学年、氏名、受洗年月日、授洗者氏名、受洗場所、受洗当時の学年が記載されている。また、資料Aの中にメモのようなものが二枚挟まれており、この資料が作成された1906（明治39）年11月29日以降の、12月1日と12月17日に追加記載されたことが書かれてある。

表紙袖に追記があるが、そこに記された「現在」がいつの時点のことかは不明である。おそらく明治39年11月29日以降であろう。「明治38年2月1日」という日付の意味も現在のところは不明とせざるを得ない。また、本資料を原簿として作成するよう指示されている「基督教信者名簿」も未発見である。

資料Bは、そのタイトルに明治39年9月1日以降と記されているが、実際には7月1日の記録から始められている。以下、10月7日、11月25日、12月16日に受洗した生徒の氏名、受洗場所、授洗者氏名が記載されている。さらに、この年12月中に分かった、本校生で仙台日本基督教会以外の他教会に於いて受洗した生徒氏名の記載もあった。



(表紙)

明治三十九年十一月廿九日改訂

現在校生徒中基督教信者名簿

庶務係

(追記)

明治三十八年二月一日以降現在

基督教信者名簿ヲ作ルベシ、而シテ之ヲ原簿トスベシ

(表紙裏)

様式

佐藤コト 明治三十六年 仙台市東二番町
十二月六日 日本基督教会
受洗

私立宮城女學校
 地址 東市三丁目六十六番地

氏名	月日	授業者	授業者	授業者	授業者
佐藤 コト	三三六	教師 古村 吉吉	信長聖堂	信長聖堂	本科二年級
岸田 マサ	三六一	同上	同上	同上	本科二年級
富田 シノ	三三一	同上	同上	同上	本科二年級
吉田 キヨミ	三三六	同上	同上	同上	同上
石川 コシ	四	同上	同上	同上	同上
岩間 ハツ子	同	同上	同上	同上	同上
中村 マサ	三三六	教師 古村 吉吉	信長聖堂	信長聖堂	本科二年級
四倉 ミサキ	三三六	教師 古村 吉吉	信長聖堂	信長聖堂	本科二年級
前田 マサ	三三六	教師 古村 吉吉	信長聖堂	信長聖堂	本科二年級
里見 ヒトシ	三三六	教師 古村 吉吉	信長聖堂	信長聖堂	本科五年級

明治 年 月 日

21.
A4

私立宮城女學校
 地址 東市三丁目六十六番地

早坂 シン	三三六	教師 古村 吉吉	信長聖堂	信長聖堂	本科二年級
狩野 ソウ	三三六	教師 古村 吉吉	同上	同上	同上
千葉 コウラ	同	同上	同上	同上	同上
滝井 マサ	三三一	教師 古村 吉吉	信長聖堂	信長聖堂	本科二年級
横尾 ヒコ	三三六	同上	同上	同上	同上
相沢 勲	三三一	同上	同上	同上	本科五年級
太田 トシ	三三一	同上	同上	同上	本科二年級
伊藤 幸子	同	同上	同上	同上	同上
堀田 キン	三三六	同上	同上	同上	本科五年級
玉手 子	三三六	同上	同上	同上	本科二年級
畑 美芳	三三六	同上	同上	同上	本科五年級
橋本 マサ	三三六	同上	同上	同上	本科二年級

明治 年 月 日

(第二紙)

氏名	受洗年月日	授洗者氏名	受洗場所	受洗当時ノ級名
佐藤コト	三六ノ 一二六	牧師 吉村未吉	仙台市東一番丁日本基督教会	本科二年級
宇田マサ	三五ノ 六一	同上	同上	本科一年級
富田ウノ	三七ノ 一、三二	同上	同上	本科二年級
吉田キヨミ	三六ノ 一二六	同上	同上	同上
石川コン	同	同上	同上	同上
岩淵ハツエ	同	同上	同上	同上
中村マツ	一九ノ 七、一六	宣教師 グリング	埼玉県越谷町日本基督教会	
四倉ミサホ	三六ノ 一二六	牧師 吉村未吉	仙台市東一番丁日本基督教会	本科二年級
前田マツエ	三四ノ 六一	宣教師 デー・ビー・シユネーダ ^ス ー	同上	豫科三年級
里見ヒトシ	三九ノ 一一、二五	牧師 吉村未吉	同上	本科五年級

(第二紙)

早坂シン	三五ノ 一一、二	宣教師 デー・ビー・シユネ ^ス ー	仙台市東一番丁日本基督教会	本科二年級
狩野ソノハ	三六ノ 一二六	牧師 吉村未吉	同上	同上
千葉マウラ				
菅井シゲノ	三七ノ 一、三二	牧師 吉村未吉	仙台市東一番丁日本基督教会	本科二年級
横尾ヒデ	三六ノ 一二六	同上	同上	同上
相沢勲	三九ノ 七、一	同上	同上	本科五年級
大田トミエ	三七ノ 一、三二	同上	同上	本科二年級
伊藤キミエ	同	同上	同上	同上
堀田キン	三九ノ 一一、二五	同上	同上	本科五年級
玉手テル	三七ノ 一、三二	同上	同上	本科二年級
畑 美芳	三九ノ 一一、二五	同上	同上	本科五年級
橋本ミサ	三八ノ 五、二七	同上	同上	本科三年級

A
*4

* A 4 : 本科四年生

A4

高橋トキヲ	三六	口上	口上	本科四年級
阿ノアノ	口
高橋シツ	口
高橋ニサ	口
奥山トキ	口

三本

11

私立宮城女學校
仙臺市三番丁六百六十一番地

早坂ノブ	三六	教師	仙臺市	本科三年級
高橋イワ	三三	古村木吉	仙臺市	本科四年級
平度ツネ	二五	本多橋一	仙臺市	本科四年級
尾花マサヲ	二二	宮崎	仙臺市	本科四年級
早坂カツミ	同上	同上	同上	
氏家テイ	三九	教師	仙臺市	
住司キク	三六	古村木吉	仙臺市	
阿部ヒサ	三三	同上	同上	本科二年級
阿部サト	同上	同上	同上	同上
北郷テル	三八	教師	仙臺市	
久光ミチヲ	一五	仙臺市	仙臺市	本科一年級
古村イキ	三三	古村木吉	仙臺市	本科一年級

明治 年 月 日

(第二紙裏)

A
*4

高橋トキラ	三九ノ 二二二六	同上	同上	本科四年級
同 アサノ	同 "	"	"	"
斎藤シツ	同 "	"	"	"
岩本ヒサ	同	"	"	"
奥山マツエ	同	"	"	"

(第三紙)

*本三

早坂ノブ	三八ノ 四、三〇	牧師 吉村未吉	仙台市東二番丁日本基督教会	本科三年級
高橋イワ	三九ノ 二二二六	全 本多庸二	東京市赤坂青山学院教会	本科四年級 青山学院ニ於テ
平渡ツネ	三五ノ 一、二六	宣教師 デー・ビー・ シユネーダー	日本基督教会古川講義所	
尾花マサヲ	三五ノ 一、二六	同上	同上	
早坂カツミ	同上	同上	同上	
氏家テイ	三五ノ 九、二八	牧師 飯久保	弘前市美以教會	
荘司キク	三六ノ 二二六	牧師 吉村未吉	仙台市東二番丁日本基督教会	
阿部ヒサ	三八ノ 二二二六	同上	同上	本科二年級
阿部サド	同上	同上	同上	同上
北郷テル	三四ノ 八、一七	牧師 吉田亀太郎	日本基督教会平講義所	
久光ミサヲ	三八ノ 一、二五	牧師 高木熊次郎	仙台市廣瀬川	本科一年級
十二村イキ	三八ノ 三二二六	牧師 吉村未吉	仙台市東二番丁日本基督教会	本科一年級

* A 4 : 本科四年生
* * 本三 : 本科三年生

私立宮城女學校
仙臺市三番丁六百六十一番地

氏家トキ子	三九	同上	同上	同上	同上
池田ケン	三九	同上	同上	同上	本科三年級
岸波キク	三九	同上	同上	同上	同上
館岡マツ	三九	同上	同上	同上	本科一年級
阿部茂	三九	同上	同上	同上	本科二年級
岡少メ	三九	同上	同上	同上	本科二年級
岡本キヤ	三九	同上	同上	同上	本科一年級
田邊ヒサ	三九	同上	同上	同上	同上
小野アイコ	三九	同上	同上	同上	本科三年級
木村ヨシ	三九	同上	同上	同上	同上
東林ミサキ	三九	同上	同上	同上	本科三年級
岡田マツ	三九	同上	同上	同上	本科一年級

明治 年 月 日

16
私立宮城女學校
仙臺市三番丁六百六十一番地

伊藤オキ子	三九	同上	同上	同上	本科一年級
橋本秀尾	三九	同上	同上	同上	本科三年級
吉田藤枝	三九	同上	同上	同上	同上
及川ナホ子	三九	同上	同上	同上	本科二年級
登間ウン	三九	同上	同上	同上	同上
思沢フリス	三九	同上	同上	同上	本科二年級
山本ミサキ	三九	同上	同上	同上	同上
別所ツネ	三九	同上	同上	同上	本科二年級
美沼シゲヨ	三九	同上	同上	同上	本科二年級
堀越カク	三九	同上	同上	同上	本科三年級
成田サヲ	三九	同上	同上	同上	本科一年級
大石フミ	三九	同上	同上	同上	本科三年級

明治 年 月 日

(第四紙)

氏家トキヨ	同上	同上	同上	同上
池田チン	三九ノ 一一、二五	同上	同上	本科三年級
岸波キク	同上	同上	同上	同上
徳岡マツ	三八ノ 三二六	同上	同上	本科一年級
阿部茂	三九ノ 一一、二五	同上	同上	本科三年級
岡 ウメ	三九ノ 二二五	同上	同上	本科二年級
岡本チヤ	三八ノ 二二六	同上	同上	本科一年級
田邊ヒサ	三八ノ 三二六	同上	同上	同上
小野アイロ	三九ノ 一一、二五	同上	同上	本科三年級
木村ヨシ	三八ノ 三	西洋宣教師	秋田県大館町美以教会	
東海林ミサホ	三九ノ 一一、二五	牧師 吉村末吉	仙台市東二番丁日本基督教会	本科三年級
岡田テツ	三八ノ 二二六	同上	同上	本科一年級

(第五紙)

本二 *	伊藤オキミ	三七ノ 五六	牧師 吉村末吉	仙台市東二番丁日本基督教会	本科一年級
	橋本秀尾	三六ノ 一二六	同上	同上	予科三年級
	吉田藤枝	三六ノ 二二(旧十五)	宣教師 梶原長八郎	若松市馬場口日本基督教会	
	及川ナホコ	三九ノ 一〇七	牧師 吉村末吉	仙臺市廣七川	本科二年級
	菅間ウン	三七ノ 五六	全上	仙台市東二番丁日本基督教会	
	黒沢フクス	三九ノ 三四	宣教師 フラスト	東六番丁日本基督教会	本科二年級
	山本ミサホ	三四ノ 一、一九	米國宣教師 フライ	仙台市名掛丁仙臺クリスチャ ン教会	
	別所ツネ	三七ノ 一二二七	牧師 落合吉之助	仙台市定禪寺通り仙台聖公會	
	養沼シゲヨ	三九ノ 三四	宣教師 フラスト	東六番丁日本基督教会	本科二年級
	堀越カウ	三九ノ 三四	宣教師 フラスト	東六番丁日本基督教会	本科二年級
	成田サワ	三八ノ 二二六	牧師 吉村末吉	仙台市東二番丁日本基督教会	本科一年級
	大石フミ	三九ノ 四、一五	牧師 海老名弾正	東三番丁組合教会	本科二年級

*本二：本科二年生

明治 年 月 日

As

依 上 本 子 目 一 三 九 牧 師 木 三 聖 堂 仙 侶
大 泥 力 又 日 口 口 口 口 口 口 口 口 口 口 口 口 口

立 石 大 學 女 子 學 校	三	二	九	牧 師 木 三 聖 堂 仙 侶
三 品 六 子 目	三	九		
大 泥 力 又 日	口	口	口	口
立 石 大 學 女 子 學 校				
立 石 大 學 女 子 學 校				
立 石 大 學 女 子 學 校				
立 石 大 學 女 子 學 校				
立 石 大 學 女 子 學 校				
立 石 大 學 女 子 學 校				
立 石 大 學 女 子 學 校				
立 石 大 學 女 子 學 校				
立 石 大 學 女 子 學 校				
立 石 大 學 女 子 學 校				
立 石 大 學 女 子 學 校				
立 石 大 學 女 子 學 校				
立 石 大 學 女 子 學 校				
立 石 大 學 女 子 學 校				

11 本

立 石 大 學 女 子 學 校

三

1

1

1

1

6

明 治 年 月 日

三 品 六 子 目	三	二	九	牧 師 木 三 聖 堂 仙 侶	
亀 井 コ ト	三	二	五	牧 師 木 三 聖 堂 仙 侶	豫 科 三 年 級
私 本 ニ ド リ	三	二	五	牧 師 木 三 聖 堂 仙 侶	豫 科 三 年 級
猪 股 シ ノ	三	二	五	牧 師 木 三 聖 堂 仙 侶	豫 科 三 年 級
作 間 ケ イ	三	二	一	牧 師 木 三 聖 堂 仙 侶	豫 科 三 年 級
菅 野 マ ツ ヨ				聖 堂 仙 侶	
喜 野 村 三 志					子 東 聖 堂 仙 侶
及 川 勝 子	三	二		牧 師 木 三 聖 堂 仙 侶	會 校 南 教
喜 野 村 三 志					子 東 聖 堂 仙 侶

(第五紙裏)

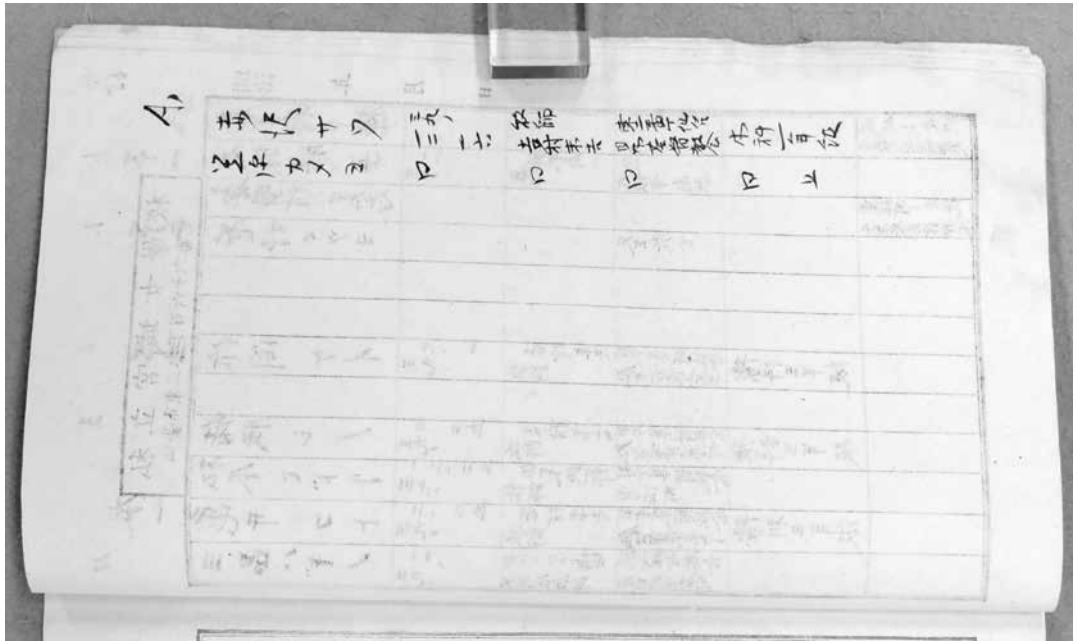
A *2	佐々木チヨシ	三九ノ 一二二六	牧師 吉村未吉	東一番丁 仙台日本基督教会	本科二年級
	大沼カネヨ	同	同	同	同

*A? : 本科二年生

(第六紙)

本一	三品ハギノ	二九ノ 一一、	米 国 宣 教 師 レ ス ト 博 士 デ フ オ	遠田郡涌谷町涌谷組合教会	
* 本一	亀井コト	三九ノ 二二五	牧師 吉村未吉	仙台市東一番丁日本基督教会	豫科三年級
	松本シドリ	三七ノ 一二二五	牧師 佐々木純一郎	岩沼町日本基督教会	
	猪股シノ	三九ノ 二二五	牧師 吉村未吉	仙台市東一番丁日本基督教会	豫科三年級
予三	作間ケイ	三九ノ 七、一	牧師 吉村未吉	仙台市東一番丁日本基督教会	豫科三年級
予二	菅野マツヨ			天主教会	
	喜多村美志				千葉県君津郡木更津町ニテ受洗
* 予一	及川勝子	三二、一一	牧師 鈴木寿一	大坂市南教会	
	喜多村操				千葉県山武郡大網町ニテ受洗

*本一 : 本科二年生
*予三 : 予科三年生
予二 : 予科二年生
予一 : 予科一年生



資料 A 終り

(第六紙裏)

A
*1

赤沢 サヲ	三九ノ 一二二六	牧師 吉村 未吉	東一番丁 仙台日本基督教会	本科一年級
笠原 カメヨ	同	同	同	同上

* A! : 本科二年生

左記人名昨廿五日幸町通日
 本基督教會名譽牧師吉
 村末吉氏より洗礼受給
 (父)
 本學生 里見ヒトシ
 同日 堀田キコ
 同日 美芳
 同日 堀田千二
 同日 阿部茂
 同日 東海林三栄
 明治三十九年十一月廿一日

表而之通、基督教信者
 名簿記載也、
 明治三十九年十一月一日
 廣務係

(以下空白)

左記八名昨廿五日、南町通日
本基督教会ニ於テ、牧師吉
村末吉氏ヨリ洗礼ヲ受ケ
タリ

本科五年生 里見ヒトシ
同 堀田キン
同 畑 美芳
本科三年生 池田チン
同 岸波キク
同 阿部 茂
同 小野アイコ
同 東海林ミサホ

明治三十九年十一月廿六日

(裏面)

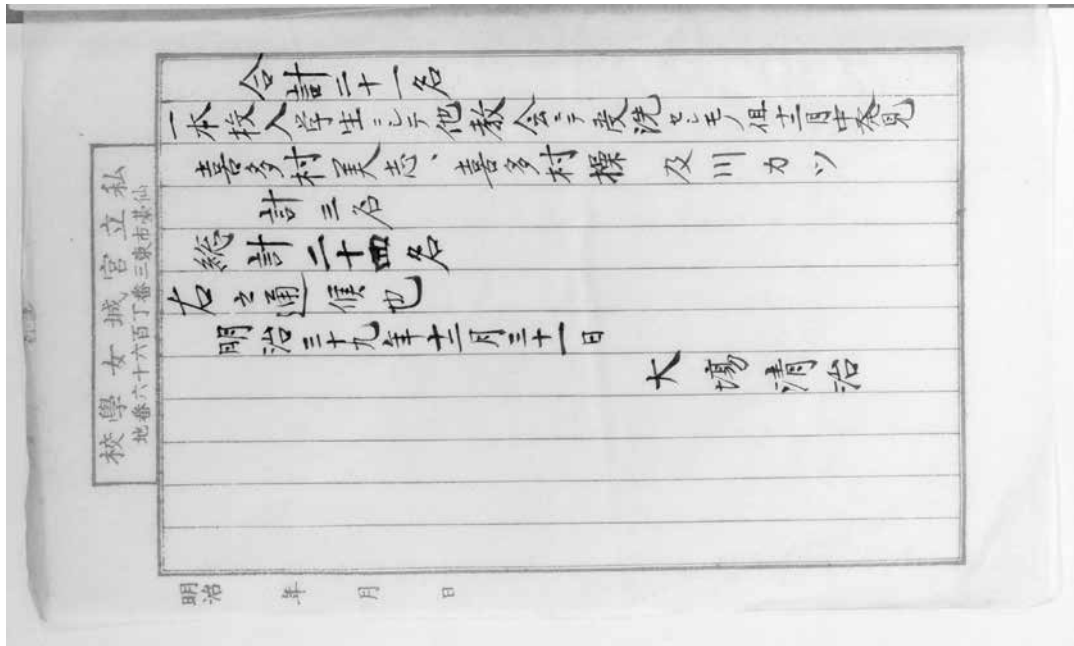
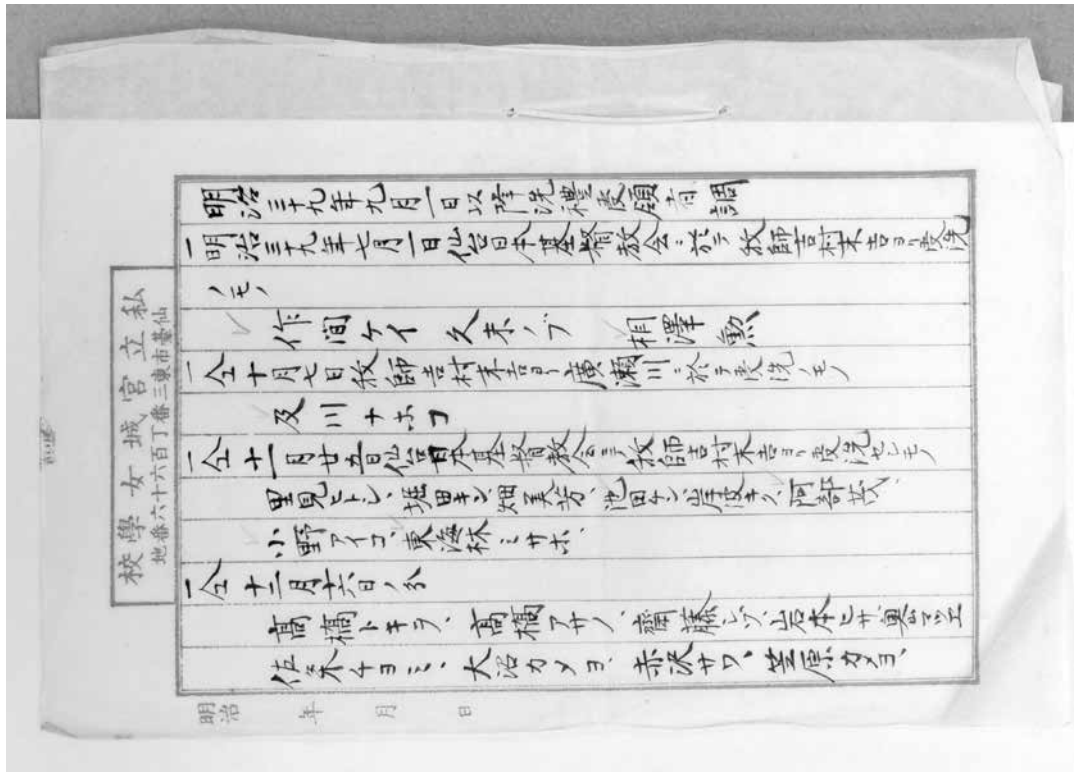
表面之通り、基督教信者
名簿ニ記載セリ

明治三十九年十二月一日
庶務係(丸印あり「大場」カ)

教員 京道信次郎
本科四年生 高橋トキヲ
全 全 アサノ
全 齋藤シヅ
全 岩本ヒサ
全 奥山マツエ
本科二年生 佐々木チヨシ
全 大沼カメヨ
本科一年生 赤沢サヲ
全 筈原カメヨ

右十名、明^ニ十六日、南町通日
本基督教会ニ於テ、同教会
牧師吉村末吉氏ヨリ洗礼
ヲ受領セラレタリ

明治三十九年十二月十七日



明治三十九年九月一日以降洗禮受領者調

一 明治三十九年七月一日、仙台日本基督教会ニ於テ、牧師吉村末吉ヨリ受洗ノモノ
作間ケイ 久末ノブ 相澤勲

一 全十月七日、牧師吉村末吉ヨリ、廣瀬川ニ於テ受洗ノモノ
及川ヲホコ

一 全十一月廿五日、仙台日本基督教会ニテ、牧師吉村末吉ヨリ受洗セシモノ
里見ヒトシ、堀田キン、畑美芳、池田チシ、岸波キク、阿部茂、小野アイコ、東海林
ミサホ

一 全十二月十六日ノ分
高橋トキヲ、高橋アサノ、齋藤シヅ、岩本ヒサ、奥山マツエ、佐々木チヨミ、大沼カメヨ、
赤沢サワ、笠原カメヨ

合計二十一名

一 本校入学生ニシテ他教会ニテ受洗セシモノ、但十二月中発見
喜多村美志、喜多村操 及川カツ

計三名

総計二十四名

右之通候也

明治三十九年十二月三十一日

大場 清治

2) 資料 A の分析結果

資料 A から読み取れることとして、学年が上がるごとに受洗者が増加していることがわかる。資料 A をもとに、1906（明治 39）年の基督教徒信者数と当時の在籍生徒数（「明治 39 年 6 月 30 日現在生徒調」¹⁾ 参考）を表 1 に示した。学年ごとの受洗者数を比較してみると、卒業学年の本科五年生では、全員がクリスチャンとなっている。さらに、在籍クリスチャンの生徒中、入学後に受洗した生徒は、75%（76 人中 57 人）であった。

次に、受洗教会及び授洗者に着目すると、生徒の 67%（76 人中 51 人）が東二番丁（現仙台東一番丁）教会で吉村末吉牧師によって洗礼を授けられていた。吉村末吉牧師は、仙台神学校（現東北学院）を卒業し、仙台東一番丁教会第七代牧師である。彼は、宮城女学校第一回卒業生である宮本むら²⁾ と結婚し、二人の男の子に恵まれた。しかし、むらは 1902（明治 35）年、三十歳の若さで天に召されたのである。その他、A.D. グリング、吉田亀太郎、A.K. ファウスト（後の宮城女学校第六代校長）、D.B. シュネーダー（東北学院第二代学院長）など、宮城女学校と関わりの深い宣教師によって洗礼を授けられていた。注目されたのは、海老名弾正から洗礼を授けられた生徒が、東三番丁組合（現仙台北）教会で一人いたことだ。『日本キリスト教団仙台北教会 120 年史』³⁾ 23 頁に、「1891（明治 24）年 5 月、海老名弾正を迎えての伝道集会、1892（明治 25）年 12 月、海老名弾正来仙し説教」の記載があった。宮城女学校の生徒が洗礼を授けられた 1906（明治 39）年の海老名の来仙の記載はなかったが、本資料から明治 39 年にも海老名弾正が来仙し、布教活動を行った可能性があると言える。

表 1 宮城女学校における基督教徒信者数と在籍生徒数(明治 39 年)

	学年	基督教徒信者数 (人)	在籍生徒数 (人)
本科	5 年	21	21
	4 年	16	18
	3 年	16	34
	2 年	13	43
	1 年	5	46
小計		71	162

	学年	基督教徒信者数 (人)	在籍生徒数 (人)
予科	3 年	1	19
	2 年	2	11
	1 年	2	6
小計		5	36

「明治 39 年 6 月 30 日現在生徒調」より筆者作成

¹⁾ 「明治 39 年 6 月 30 日現在生徒調」（宮城学院資料室所蔵）は、生徒 198 名の氏名、成績の合計点、平均点を記載している。

²⁾ 宮本むらについて書かれた書物『O MURA SAN』は、『本年報第 21 号』（2016 年 3 月、50 頁－84 頁）に紹介されている。

³⁾ 日本基督教団仙台北教会 2010 年 3 月発行。海老名弾正が来仙した当時の牧師は、三宅荒毅。1906 年は、片桐清治第 2 代牧師。

さらに本科五年生について、21人中13人が1903（明治36－37）年度、すなわち本科二年生の時に受洗していることに注目したい。本科五年生が入学する1902（明治35）年は、3月に木造校舎が全焼し、片平丁にある日本人家屋を借りて学校生活を送るいわゆる「片平丁仮校舎時代」にあたる。彼女たちは、片平丁仮校舎で学校生活を始めた。そして翌年、本科二年生になった1903年に新しい寄宿舎が完成し、二階を寄宿舎、一階を校舎として9月に授業が再開された。そして、1904（明治37）年、彼女たちが本科三年生になった年に新校舎（第一校舎）が献堂された。

本資料に見える本科五年生が宮城女学校で過ごした五年間は、火災で校舎全焼という予期せぬ不幸に見舞われた直後から始まったが、ゾーフル校長を始め、ワイドナーやパーウエルという婦人宣教師たちが日本人教職員と力を合わせ、新寄宿舎・新校舎献堂に向け、宮城女学校の益々の発展という明るい未来のために一丸となって困難に立ち向かっていった時期であった。その努力が、1903（明治36）年3月、97人の在籍生徒中32名がクリスチャンに導かれるという数字に表れているのではないだろうか。

3) 寄宿舎の役割

宮城女学校に入学する生徒達は、キリスト教主義学校だからという理由で入学する生徒もいれば、キリスト教に全く接することがなく入学した生徒ももちろんいたことであろう。

では、なぜ資料Aに見える「在籍クリスチャンの生徒中、入学後に受洗した生徒が、75%（76人中57人）」、「卒業時まで全員がクリスチャンになる」という結果が生み出されたのであろうか。この高いクリスチャン化率の理由はどこにあるのだろうか。その理由を探るヒントが、『宮城女学校五十年史』（1936（昭和11）年12月発行）に収められた卒業生の回顧録にあると思われる。

①第8回卒業生・後に宮城女学校教員 原田ことちの文より抜粋（原文通り、ただし、人名を除いて旧字体は新字体に改めた）

校長のゾーフル先生は実に愛の化身とでも言ひたい方で、お小遣ひが来ないで困つて方には何かわざと用をさせてお金をあげたり、学費を出してあげたりなさいました。私共が風邪でも引かうものならスプーンで私共の舌を押さへてノドへお薬をつけて甘草とかいふあまつたるい匂ひの煎薬をこしらへて持つて来て下さつたり、蜂蜜を持つていらして熱湯にといて御自分が先にスプーンでお舐めになつてから、其のまま下さるのには誰も閉口しました。併し先生はこれ程私共を愛して下さつたのです。・・・宗教方面はまだ日本に女子青年会のない頃でしたが、礼拝は朝はゾーフル校長、三時には幹事の佐伯先生、夜六時の寄宿生のためには校長以外の西洋の先生と寄宿にお出での訳の先生と御二人が司会でした。朝は英語、午後は邦語、夜は邦語・英語両方でした。お陰で主の祈りも校長

の祈りも意味は分らずと英語で覚えてしまひ、真似をしたりしました。水曜日には三時から生徒の司会でお祈会をしました。日曜の午前には校長と舎監の浅井先生に引率せられて教会に行き、午後は上級生は日曜学校を教へに出かけ、下級生は校長先生や訳の先生の組に分れて日曜学校がありました。女中や小使ひさんは浅井先生の組でした。夜七時から校長先生のお宅で西洋の先生が代り代りに当番でヘルパーの方が通訳でお話があり此時だけ一週に一度だけピアノに合わせて英語の讃美歌を唱ふのでした。

②第 19 回卒業生 岡田佐知子の文より抜粋（原文通り、ただし、旧字体は新字体に改めた）

日曜日は四・五年の上級生で、あちらこちらへ伝道にゆかれる人々を除くその他の寄宿生は全部先生に引率されて南町の教会へゆきました。午後からは室内で黙禱をしたり、聖書を読んだり、又はお天気の良い日など裏庭の井戸端の傍の青々とした絨毯を敷きつめた様な芝草やクローバの上で、お友達と将来の希望や未来の事や魂の有無についてなど種々議論をし合つたりしたものでした。上級生になつてから、学校の前の人力車や汽車に乗つて、あちこち伝道に行くのも又楽しい事の一つでした。

③第 23 回卒業生 大場慰子の文より抜粋（原文通り、ただし、旧字体は新字体に改めた）

寄宿舎では日曜日の夜の礼拝は、今も校門の左方に残つて居る西洋館の客間で、夜七時から行はれる事になつて居ました。その礼拝の時は必ず小さい予科生の私共が、英語の讃美歌を寄宿舎から運んで行つたり、持ちかへつたりするのが役目でした。……ミス、ワイドナーといふ方が校長になられたのでございます。先生は私共にピューリタン式な信仰、ピューリタン式な生活又は学問を授けて下さつた様な気がいたします。……日曜日の午後のサイレントアワーの時はそれこそ静肅にして聖書でも読んで居りませんでしたら、そつと音をたてずに各室をお巡りになつて御目玉を頂く様な事が度々でございました。この様な厳格そのものの様な硬教育をして下さいましたが、その反面、寄宿舎で誰かが病気でございましたと、御自身でヒマシ油を持つていらして、よく病人の面倒を見て下さるといふ温和な方面も多分にお持ちでございました。

当時の寄宿生たちは実に多くの時間を礼拝や聖書・讃美歌に費やし、キリスト教的な生活に根差して日々を過ごしていたことがわかる。また日曜日となれば、宣教師とともに教会へ行き、日曜学校で奉仕活動や伝道活動などを行う。まさにキリスト教主義女子教育が日常生活を通して行われていたのである。婦人宣教師も、ただ厳格なだけでなく、病気の時は親身になって看病したり生徒たちを心から愛しんでいたことが感じ取れる。

1895（明治 28）年、ズーフル校長が外国伝道局へ送った報告書によれば、当時の生徒

数は55名で、内42名が寄宿生であった。中年の日本人クリスチャン婦人が専任舎監として寄宿生と生活をともにし、生活指導の任に当たっている。生徒たちは、日曜日の教会の礼拝が終わった後、仙台市内各所で開かれる日曜学校に出向き、伝道に協力している。日曜学校の応援に出向かない残りの生徒たちのためには、同じ時間に校舎内で日曜学校が開かれていた。毎晩校舎内で開かれる祈祷会が、日曜日の夜だけは婦人宣教師館で開かれた。この年は、55名の生徒中、30名がクリスチャンであり、未信者の家庭で育ち宮城女学校に入学した生徒が、数年経ち信仰を言いあらわすようになることは非常に喜ばしいと報告されているのである（『天にみ栄え』297頁）。

このような日々の生活を通して、キリスト教に接したことのない生徒も、宮城女学校でのキリスト教主義女子教育の中で、75%の生徒が在学中に教会で受洗し、卒業時までにはクラス全員がクリスチャンになったのである。それは決して特別のことではなく、言わば当たり前のような感覚でそうなったのではなかったろうか。十代の多感な少女たちは寄宿舎で生活を共にし、友人と語らう中で、婦人宣教師と共に伝道活動に向かう上級生たちに自分もあのようになりたいと憧れを抱き、受洗したのかもしれない。

1902（明治35）年5月、「合衆国改革派教会」総会が開催された。外国伝道局総幹事バーソロミューは、「宮城女学校は卒業生がクリスチャン婦人となり、あるいは婦人伝道者となることを目的としている学校である」と述べ、教会員による尊い献金で建てられた最初の本造校舎が火災で全焼し、仮校舎で不憫な生活を送っている状況を報告して、新寄宿舎・新校舎献堂に向けて献金のお願いを述べている（『天にみ栄え』353頁-354頁）。その、再建の第一号が「寄宿舎」だった。

これらのことから、宮城女学校における「寄宿舎」は、単に遠方の生徒たちの生活場所を確保するという場だけではなく、前述のように伝道活動の主要な場になっていたことがわかる。婦人宣教師との寄宿舎での福音に基づく人格的交わりの日々を通して、生徒たちに、キリスト教の精神を涵養させる最も重要な場であったと言えよう。今回発表した資料の一端からも、当時の寄宿舎が、宮城女学校に与えられた使命を果たす一役を担っていたことがわかった。今後の課題として、さらに寄宿生の詳細について書かれた資料を発見していくことが、当時の宮城女学校のキリスト教育を知る手掛かりとなるであろう。

おわりに

この名簿が作成された真の理由は明らかではないが、おそらく外国伝道局に報告するために、調べたものと推測される。今のところ、1906（明治39）年分しか見つけることは出来ていない。日本基督教団の教会ごとに発行されている記念誌等で受洗年月日や受洗者氏名の記録を見たことはあるが、学校単位で生徒の受洗記録を調べ名簿にし、更に洗礼を授けた人・場所・洗礼を受けた年月日・学年までを記録に残しているのは非常に珍しいのではないだろうか。この資料は、初めて手にした時の思い以上に貴重な資料なのではないだろうか。

かと考えるに至った。

資料 A、資料 B を紹介するにあたり、生徒の名前、受洗記録等は個人的な情報に属するものであり、匿名扱いにすべきか悩んだ。しかし、この資料は、創立期の宮城女学校の、ミッションスクールとしての活動実態を研究する基礎資料となるものであり、今後研究を深化させるために、必要な歴史情報になると考えた。そこで宮城県公文書館の公文書利用制限を見てみると、信徒名簿等の宗教・思想に関わる資料の利用制限は「80年」であった。この資料が作成されてからすでに114年経過しており、宮城県公文書館の基準に倣い、本資料全文を掲載することとした。そのことを最後に記しておく。